

地域共創科に関する

Q&A

Q2 地域共創科は大学進学で不利になることはありませんか？

大学入学共通テスト(旧センター試験)での進学を目指す場合は、普通科に進級することを勧めます。

もちろん、地域共創科でも大学入学共通テストを受験することはできますが、受験科目によっては放課後や隠岐国学習センターを活用して主体的・自律的に学ぶ必要があります。一方で、地域のリアルな現場で実践的に学ぶことで総合型選抜(旧AO入試)や推薦選抜では他校にはない強みを発揮できると考えています。近年、国立大学でも総合型選抜の実施率は75%を超えているため、大学進学で不利になることはないと考えています。

Q5 地域共創科に進んだ場合、部活動はこれまで通りできますか？

部活動はこれまで通り継続できます。むしろ、高校時代にしかできない部活動には熱心に打ち込んでください。部活動でも地域の方々に関わる機会が多くありますし、何よりも挨拶や礼儀など人間的にも磨かれる部分が多くあります。普通科であっても、地域共創科であっても、部活動に参加することを積極的に勧めます。

Q6 地域共創科の教育課程を教えてください。

地域共創科の教育課程は以下の通り予定しています。
なお、普通科の教育課程表については、本校ウェブサイトに掲載していますのでご確認ください。

学年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1	現代の国語	言語文化	公民	数学Ⅰ	数学A	物理基礎	化学基礎	生物基礎	体育	保健	英語コミュニケーションⅠ	論理・表現Ⅰ	家庭基礎	総合的な学習の時間	H	R															
2	論理国語	古典探究	地理総合	歴史総合	数学Ⅱ	地域未来共創	地域未来共創	地域未来共創	体育	保健	英語コミュニケーションⅡ	論理・表現Ⅱ	情報Ⅰ	総合的な学習の時間	H	R															
3	論理国語	古典探究	地理探究	日本史探究	世界史探究	数学探究A	グローカル未来共創	グローカル未来共創	政経	生活ビジネス教養	体育	英語コミュニケーションⅢ	論理・表現Ⅲ	総合的な学習の時間	H	R															

■ 学問的・探究的な学習の時間 ■ 実践的・探究的な学習の時間

Q1 地域共創科の入学から卒業までの流れはどのようになりますか？

高校入試の際に80名を募集し、入学から1年間は全員が普通科として共通カリキュラムで学びます(入学時に学科選択はしません)。1年2学期末(12月頃を予定)に各自の興味関心や進路希望などに応じて学科選択をし、2年次から普通科か地域共創科に分かれて学びます。それぞれの定員は40名となります。生徒の皆さんが安心して学科選択できるよう、教職員がきめ細かくサポートしていきます。

Q3 地域共創科の育てたい人材像を教えてください。

育てたい人材像はこれまで本校が掲げてきた「グローバル人材」で変わりはありません。グローバル人材とは、広い視野で考えながら、足元から実践していける人材であり、どこにいてもふるさとを思いながら、自分自身や地域の特性を活かして活躍できる人材としています。地域共創科では、「仲間と共に、大人と共に、地域と共に、意志ある未来を創る」をスローガンに、2ページにある「主体性」「協働性」「探究性」「社会性」を、諸課題が複雑に絡み合うリアルな地域の現場をフィールドに磨いていきます。

Q4 地域共創科に進む時点で、探究したいテーマが明確になっている必要はありますか？

1年終了時に探究したいテーマが明確になっている必要はありませんが、仲間と共に、大人と共に、地域と共に実践的に学んでいく姿勢・態度は必要になります。



歩み続ける

島前高校の魅力を、島前地域の魅力へ

社会が急速に変わりつつあるなかで、

2022(令和4)年の春、隠岐島前高校が少し変わります。



島根県立隠岐島前高校

Oki-Dozen Senior High School



島根県立隠岐島前高等学校

〒684-0404 島根県隠岐郡海士町福井1403
TEL: 08514-2-0731 FAX: 08514-2-0035

www.dozen.ed.jp



社会が急速に変わりつつあるなかで、2022(令和4)年の春、隠岐島前高校に地域共創科が誕生します。

これまでと変わらないこと

① 普通科は継続します。

これまで通り、全日制普通科は継続します。離島で学びながら大学入学共通テスト(旧センター試験)をはじめ、国公立大学等に進学可能な学習機会を保障します。あわせて夢探究をはじめとする本校独自の特徴的な科目も継続します。また、学級数に変わりはありません。これまで通り2学級80人が定員となり、教職員の数も変わりません。

② 高校入試はこれまで通りです。

島根県公立高等学校入学選抜(高校入試)は、一般選抜も推薦選抜も大きな変更はありません。入学時は全員が全日制普通科として入学します。細かな変更点は11月頃に島根県教育委員会の実施要綱でご確認ください。

③ 1年次は共通カリキュラムです。

これまで通り1年生は全員が共通カリキュラムで学びます。隠岐島前出身の生徒と島留学の生徒が互いの違いをいかし合いながら協働できる関係性を構築し、学びに向かう姿勢・態度の土壌をつくる1年にします。

仲間と共に、 大人と共に、 地域と共に、 意志ある未来を創る

社会はこれからも大きく変化していきます。社会の変化が大きな時代ですが、その変化はますます速くなるのが予想されます。AIやIoTの登場で都市部だけでなく地域社会も大きく変化しています。その変化の中で自分らしく、主体的に生きていくことが大切になります。

これから変わること

新たに設置される「地域共創科」では、教科学習や「総合的な探究の時間」による探究的な学びとあわせて、地域でのより実践的・実際の学びを展開することで、他校にはない隠岐島前ならではの「地域・社会と共にある教育環境」をつくります。

1 新たに「地域共創科」が設置されます。

2022(令和4)年度から「普通科」と合わせて、新たに「地域共創科」が設置されます。これは文部科学省の普通科改革(※1)の流れを全国に先駆けて実施するもので、より地域の特徴を生かしたカリキュラムで学ぶことができる新しい制度です。(詳細はQ&Aページを参照ください)

2 2年生から学科が分かれます。

2年生から「普通科」と「地域共創科」の2つの学科に分かれます。学科は1年2学期末(12月頃を目処)に選択する予定です。学科選択は卒業後の進路にとって非常に重要であるため、1年次に生徒および保護者の方を対象に説明会を実施し、きめ細やかにサポートする予定です。

3 「地域共創DAY」が設置されます。

地域共創科における2年次の「地域未来共創」と3年次の「グローバル未来共創」は、それぞれ週6時間分あり、1日をつかって地域に飛び出し、地域のリアルな現場で実践的・探究的に学ぶ時間をカリキュラムの中で設けます。

※1 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)には、高校生の学習意欲を喚起し、その能力を最大限に伸ばできるように、多様な実情・ニーズに応じた学びを実現する高等学校教育に転換する方策としてこの普通科改革が掲げられています。

隠岐島前高校が目指す生徒像

「普通科」であっても「地域共創科」であっても、目指す生徒像は「グローバル人材」で変わりありません。「グローバル人材」を目指すための本校の教育目標を改めてご紹介します。

- 1 真理の探究に向け、協働的に粘り強く挑戦する人の育成
- 2 理想を追求し、自己を高め、地域社会に貢献する人の育成
- 3 進取の気象をもち、主体的、意欲的に行動する人の育成
- 4 心身ともに健康、情豊かで、他人を思いやる人の育成

地域共創科のカリキュラムで伸ばしたい資質・能力とは

新学科「地域共創科」では、意志ある未来を共に創っていくために、とくに4つの観点を大切にしていきます。これらの資質・能力はこれからの人生で宝物となることを想定し、高校時代に基礎を築くものです。

- 1 主体性: 未知なる物事に対して一歩踏み出す・踏み込むことができる
▶ そのために、困難や障壁に向かって一歩を踏み出す経験をしてもらいたいと考えています。
- 2 協働性: 自分を活かしながら、多様な人と協働することができる
▶ そのために、多様な世代を巻き込み、行動に責任を持つ経験をしてもらいたいと考えています。
- 3 探究性: 適切に問い続けることができる、適切に振り返ることができる
▶ そのために、成功体験だけでなく失敗体験さえも学びに変える経験をしてもらいたいと考えています。
- 4 社会性: 小さな行動・小さな越境を粘り強く続け、周囲に貢献することができる
▶ そのために、地域に暮らす当事者として、納得するまでやり切る経験をしてもらいたいと考えています。

— 地域共創DAYのイメージ —

実践から得る想いを共有し、振り返りを次の活動に活かす



単なる体験に留めない一次産業分野での貢献



手を動かすことで見えてくる課題の本質に迫る



振り返りと共有から、もう一度、実践へつなげる



教室の中だけでは絶対に実感できない達成感

